

「安全・安心」な牛乳は努力の賜物!

酪農家・清水さんに聞く!

「ニッポンの酪農」

私たちの食卓に欠かせない牛乳やバターなどの乳製品。
その原料となる生乳を生産している酪農家とは、どのような職業なのでしょう。
愛知県で酪農を営んでいる清水ほづみさんに、
フリーアナウンサーの赤江珠緒さんが聞きました。

「安心して飲んでもらえる牛乳を届けたいんです」

酪農家 清水ほづみさん

1960年生まれ。高校卒業後、鉄道会社に就職。80年に結婚し、就業牧場で約200(うち搾乳牛約100)頭を飼養。後継牛はすべて自家育成している。

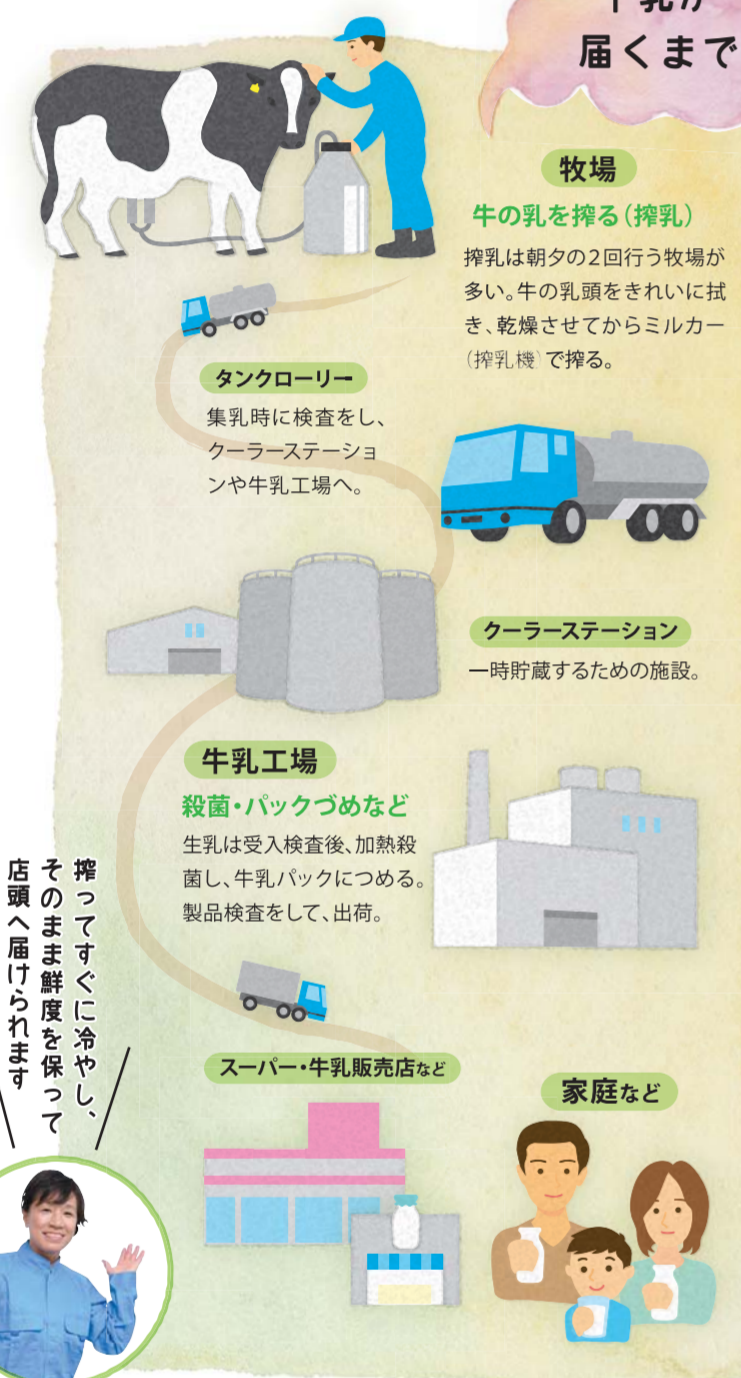
「地道な作業の積み重ねが安定供給を支えるんですね」

フリーアナウンサー 赤江珠緒さん

1975年生まれ。大学卒業後、朝日放送に入社。現在はTBSラジオ「たまむすび」のパーソナリティやTBS系「この差って何ですか?」の司会として活躍中。



牛乳が届くまで



最大の仕事は「乳牛の健康管理」

指定団体は欠かすことのできない存在なのです。



ミルクカーによる搾乳の様子

毎日が苦勞と喜びの連続

赤江 私も日頃から牛乳や乳製品のお世話になっていますが、酪農家の皆さんは日々どんな仕事をされているのですか?
清水 酪農家の最も大切な仕事は乳牛の管理。具体的には「掃除」「餌やり」「搾乳」の3つです。牛が健康で良い乳を出すためには、その中でも特に掃除が大切だと私は思います。牛舎が汚れていると牛の食欲が落ち、病気にもかかりやすくなり、結果としてお乳が出なくなってしまうからです。私の牧場では1日に7回ほど掃除をしますが、その時に糞の状態やエサの食べ残しがないかなどを確認します。それによって牛の体調がひと目で分かるのです。
赤江 そうして大切に育てた牛から搾った乳は、どのように消費者へと届けられるのでしょうか?
清水 私たちが搾った乳を「生乳」といいます。生乳は各酪農家から指定生乳生産者団体(以下、指定団体)を通じて乳業メーカーに販売され、牛乳などの製品になって、店頭へと届けられます。指定団体が販売を担ってくれるので、私たちは安心して生乳生産に集中できます。

赤江 酪農の仕事の中で特に大変なのはどんなことですか?
清水 私はあまり苦勞を感じない性格なのですが、強いて挙げれば、生き物が相手なので「休みがとりづらい」「手を離せる時間が限られる」ということでしょうか。うちの家族は、夫と息子の嫁が牛舎の作業を行い、息子の嫁が主に家事や地域の仕事を担っています。牛舎には2人いないといけませんから、今日は夫と息子が残ってくれています。結婚してから現在まで、夫と一緒に遠出したことはほとんどありません。

赤江 「酪農の仕事をしていてよかったな」と思うことについてもお聞かせください。
清水 私は「酪農教育ファーム」*活動を実施しており、牧場では年間約2千人の子どもたちを受け入れています。彼らに、牛や牧場の説明を通じて「命」や「食」について話させてもらえ、運のいい子たちは、牛のお産を見学することもできるんですよ。

赤江 それは、すごい…。子どもたちにとっても忘れられない、貴重な体験になりますね。
赤江 いま酪農家の皆さんが抱えている課題は?
清水 何となく「飼料価格の高止まり」などによる「生産コストの増加」ですね。国産飼料の生産にも取り組んでいるのですが、どうしても土地が限られていますから、大部分を輸入飼料に頼らざるを得ないのです。

赤江 TPPなどによって今後輸出をめぐり事情が変わると、外国から輸入される製品との競争が激しくなる可能性もありますね。
清水 その通りです。私たちとしては日本の消費者のニーズに合わせた牛乳・乳製品を安定的に提供するため、安全・安心な生乳を生産し続けていくことが大切なのではないでしょうか。
赤江 次代を担う人々についてはどうお考えですか?

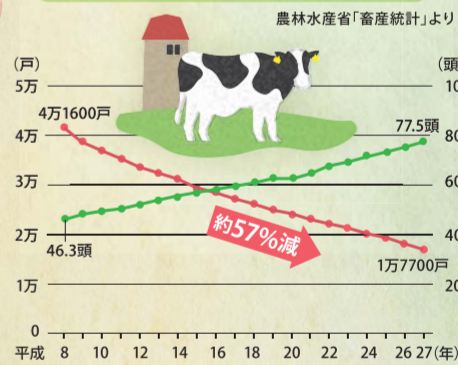
赤江 日々の仕事にはどんな思いで取り組んでおられますか?
清水 酪農に携わって早35年になりますが、いつの時も「安全・安心な生乳を搾ること」、そしてその継続により「安定供給を支えること」が使命だと思っています。働いています。そのため、牛の健康状態や衛生管理には細心の注意を払っています。生乳は栄養が豊富な反面、傷みやすく、デリケートなものですので、取り

赤江 「食」に関わる誇りを胸に
清水 幸いなことに、うちの牧場は息子が継いでくれることになっていますが、全国的に見ると後継者がいないために廃業を考えている酪農家も少なくないようです。また、牛乳・乳製品の加工に自ら取り組む人も少しずつ変化してきているかもしれません。でも、私はこれからも生乳をしつかり搾っていきたくて、息子や孫の代にも日本の酪農が続いていくことを願っています。

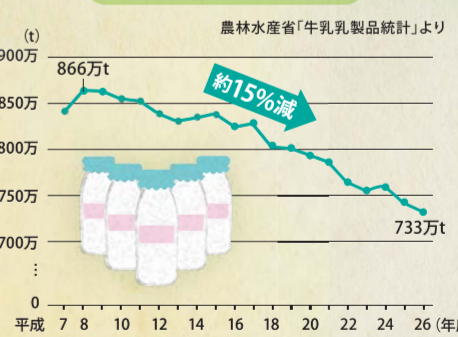
赤江 清水さんにとっての酪農とは?
清水 「命を身近に感じる」、そして「地域と共存していく」、魅力的な仕事だと思っています。
赤江 これからも、ぜひ安全・安心な日本の生乳を生産してください。

データで知る酪農のいま

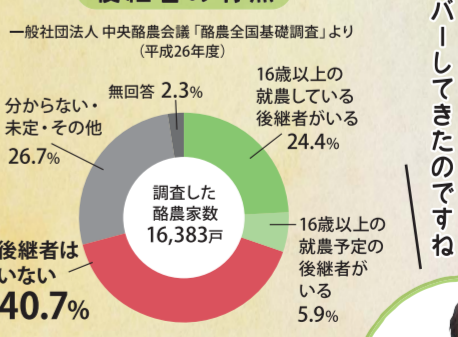
酪農家戸数及び1戸当たり飼養頭数の推移



生乳生産量の推移



後継者の有無



生乳生産量の減少をカバーしてきたのです

